

KUBOTA-SITE

窪田遺跡

町道富岡～南新居線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査



2003. 3

長坂町教育委員会

KUBOTA-SITE

窪田遺跡

町道富岡～南新居線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

2003. 3

長坂町教育委員会

序

長坂町は広大な八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置し、国蝶オオムラサキの生息地として全国的に知られているように、自然に恵まれた高原の町です。それとともに、およそ200ヶ所以上もある遺跡の密集地帯としても知られています。

長坂町教育委員会では各種の開発事業に際し、このように数多い遺跡の保護を図りつつ、必要に応じて発掘調査を実施し、記録として遺跡の内容を後世に伝えるための埋蔵文化財発掘調査事業を推進しております。

本書は平成14年度に、町道富岡～南新居線拡幅工事に伴う緊急発掘調査を実施した窪田遺跡の調査報告書です。窪田遺跡では縄文時代の土器・石器やピット群、平安時代の竪穴住居跡などが発見されました。窪田遺跡周辺は八ヶ岳南麓でも有数の遺跡集中地域の一つで、調査された遺跡は、縄文時代で柳坪A・柳坪B・柳坪北遺跡、石原田北遺跡、平安時代で柳坪A・柳坪B遺跡、石原田北遺跡、小和田遺跡、南新居西遺跡、深草遺跡、柳新居遺跡など数多くの発掘調査事例があります。今回の調査は、その遺跡集中地域の中のごく僅かな面積でしかありませんが、他の遺跡と一緒に比較検討することで、この地域の歴史が浮かび上がってくることでしょう。

最後に、窪田遺跡の発掘調査にあたり、格別なご理解をいただいた大八田地区の皆様をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が広く教育や研究の場で活用されることを期待しています。

2003年3月

長坂町教育委員会
教育長 小尾章臣

目 次

序

例言・凡例

本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章 調査の経緯と概要	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の概要	1
第2章 遺跡周辺の環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	1
第3章 発見された遺構と遺物	1
1. 基本層序	1
2. 縄文時代	1
3. 平安時代	2
4. その他	3
第4章 1号住居跡出土炭化材の年代と樹種	3
1. はじめに	3
2. 試料	3
3. 方法	3
4. 結果	3
5. 考察	3
第5章 調査の成果と課題	4
参考文献	4

挿 図 目 次

第1図 長坂町遺跡分布図	5
第2図 窪田遺跡周辺の遺跡分布図	6
第3図 調査区位置図	6
第4図 調査区全体図・基本土層断面図	7
第5図 ピット群、1・2号土坑、住居跡推定図	8
第6図 縄文土器	9
第7図 縄文土器・石器、古墳時代土師器、1号溝	10
第8図 1号住居跡	11
第9図 1号住カマド、1号住出土遺物	12
第10図 1号住遺物出土状況	13
第11図 調査区遺物出土状況	14
第12図 1号住炭化材出土状況	15

表 目 次

第1表 長坂町遺跡地名表	5
第2表 1号住出土炭化材分析結果	15
第3表 1号住居跡内ピット一覧	16

第4表 土坑・ピット一覧	16
第5表 土器観察表	17
第6表 石器観察表	19
第7表 遺構別出土石器内訳	19
第8表 遺構別出土土器内訳	20

写真図版目次

図版1 窪田遺跡周辺遠景(1986年撮影)・調査区全景① (南から)	
図版2 調査区全景②(南から) 調査区全景③(北から) ピット群全景(西から) 1号土坑・2号土坑 2号土坑遺物出土状況	
図版3 1号住居跡①(西から) 1号住居跡②(北から) 1号住カマド礫出土状況①(西から) 1号住カマド礫出土状況②(北西から) 1号住カマド完掘状況 1号住貯蔵穴 作業風景①・作業風景②	
図版4 2号土坑出土土器 縄文土器・石器及び石製品 古墳時代土師器 1号住出土甲斐型坏 1号住出土坏 1号住出土甕他 1号住出土武蔵型甕	
図版5 1号住出土炭化材	

第1章 調査の経緯と概要

1. 調査に至る経緯

長坂町は、平成13年度に町道富岡～南新居線拡幅事業を開始した。長坂インターチェンジ（以下、長坂I.C）北側の交差点から大泉村との町村境までの約800m間を工区とし、その範囲内に埋蔵文化財包蔵地があるかどうかの照会を、町建設課から受けた。平成14年6月に試掘調査を行い、大八田字窪田地内の畑地で縄文時代及び平安時代の土器が出土し、平安時代の住居跡と考えられる遺構が発見され、その畑地については本調査が必要との回答を建設課へ提出した。本調査予定地は、平成14年度の完成を目指している区間であり、教育委員会側でも他の発掘調査事業の調整でその箇所の本調査は可能と判断し、平成14年7月の長坂町議会で補正予算が承認され、同年8月28日発掘調査を開始した。調査は約3週間を要し、同年9月13日に終了した。

2. 調査の概要

発掘調査は調査区面積が60㎡と狭く、グリッド杭は打たず、任意に2本の杭を打ち、光波測量機を据える点と水平角の基準点として使用した。また、表土剥ぎから人力で行い、遺構確認面になると丁寧に精査し、遺構を確認していった。

遺物は、表土中から出土したものは調査区一括としてまとめ、それ以降は出土原位置で光波測量機による記録・取り上げ作業をし、必要なものは簡易遣り方による手実測で図化していった。遺構も土層断面・遺構平面図を光波測量機による記録、平安時代堅穴住居跡のカマドを簡易遣り方による手実測で図化した。また、調査の状況に応じて写真撮影を行った。調査後は続けて整理作業に入り、平成15年3月に完了した。

第2章 遺跡周辺の環境

1. 地理的環境

本遺跡は山梨県北巨摩郡長坂町大八田字窪田に所在する。長坂町は八ヶ岳南麓に位置する南北に細長い町であり、本遺跡のある大八田地区は町の中央部東側に位置し、中央自動車道長坂I.Cがある。

大八田地区は北から南へ緩傾斜する低地であり、八ヶ岳から放射状に流下する河川の氾濫原で、川の浸食が進まず谷の形成が弱い。

大八田地区から西では、河川の浸食が激しく谷を形成しており、至る所で尾根状台地が発達している。大八田

地区から東側は、大泉村南部・高根町西部となり、谷の形成が弱い緩傾斜地域が広がる。大八田地区はちょうど谷形成地域と緩傾斜地域との変換点に位置すると言える。

本遺跡は、その大八田地区でも北部にあり、調査区から400m北に行くと大泉村との町村境になる。東に甲川、西に泉川とに挟まれた低い台地上に遺跡は立地し、中央自動車道長坂I.Cから北へ約500m離れた所にある。

2. 歴史的環境

本遺跡がある大八田地区は、非常に多くの遺跡が分布し、調査も数多く行われている。

縄文時代の遺跡としては、柳坪A遺跡、柳坪B遺跡、柳坪北遺跡、小和田遺跡、石原田北遺跡、小屋敷遺跡が調査されている。中でも柳坪A・B遺跡は、住居跡内から曾利式土器がまとまって出土しており、曾利式土器編年の研究に不可欠な遺跡である。

さらに周辺を見渡すと、前期後半の天神遺跡、中・後期の姥神遺跡、後・晩期の国史跡金生遺跡など、八ヶ岳南麓を代表する縄文時代の遺跡が数多く分布する。

平安時代では、柳坪A遺跡、柳坪B遺跡、柳坪南遺跡、小和田遺跡、深草遺跡、石原田北遺跡、境原遺跡、南新居西遺跡、小屋敷遺跡、大八田・原田遺跡が発掘調査されている。

中世・戦国時代では国人領主層の館とそれを取りまく集落が確認され、3ヶ所から埋蔵銭が出土した小和田館跡・小和田遺跡、堀と土塁が良好に遺存する県指定史跡深草館跡がある。畑の耕作中に埋蔵銭が発見された洪田遺跡、深草館跡の外郭部に当たる金生遺跡B区もある。

第3章 発見された遺構と遺物

1. 基本層序

調査区の基本層序は単純である(第4図)。1層として表土にあたる耕作土があり、その下に暗褐色土層の2層があり、これが包含層にあたる。縄文土器から近世以降の陶磁器が混在し、時期ごとの層位的な出土はない。その下は小礫の混じる黄褐色土の3層であり、これが地山となり遺構が構築されている。よって3層上面が遺構確認面となる。なお、調査区北側は1層の下は直ぐ3層となり、2層及び3層上面が削られている可能性がある。

2. 縄文時代

2号土坑(第5図)

(位置) 調査区北端の中央やや西寄りにある。

(重複) 1号溝に切られている。

(形状) 円形。

(遺物) 第6図1の堀ノ内式土器が出土している。

(遺物出土状況) 遺構確認面で第6図1が出土し、土器の弧が土坑の輪郭に沿うような状況で確認された。土坑覆土の中央から他の土器の小片が出土している。

(時期) 堀之内式期。

(備考) 調査時に土坑として扱い、報告もそのままであるが、規模等はピットと同じであるので、ピットとした方がいいのかもしれない。

ピット群 (第5図)

(位置) 調査区の北側半分にある。

(重複) ピット数基が1号溝に切られている。

(遺物) 堀ノ内式土器を中心に縄文時代中期から後期の土器が出土している。遺物が出土したピットは4・9・10・12・15・16・18・19・20・21・23・24号の12ヶ所である。

(遺物出土状況) 遺物が出土したピットでは、上層から中層にかけて遺物が出土している。流れ込みとも考えられる。

(時期) 全てのピットが同時期とは限らないが、出土遺物から判断すると縄文時代後期前半の可能性が高い。なお、13・14号ピットは砂利で埋められていたので、現代の遺構であろう。

(備考) ピットは散在し規則的な配置ではなく、また、調査区が狭いので断定はできないが、いくつかのピットは住居の柱穴になる可能性がある。基本層序の項でも述べたが、ピット群のある付近は包含層や地山の上面が削られている可能性があるため、住居跡の掘り込みや炉などが削られ、柱穴だけが残ったとも考えられる。

そこで、各ピットの底部の標高を見てみると3つの範囲にまとまってくる(第4表参照)。柱穴を掘る時、ある程度深さを同じにすることは当然考えられるので、それを基に、3軒の住居跡があったのではないかと推定した(第5図下段)。以下その概略を述べる。

推定住居跡①：3・5・9・12・17・18号ピットの6つで、底部の標高は739.331~739.414mの8.3cmの範囲に収まる。配置を見ると5号が内側にあり全部が同時期と考え難い。4本柱から5本柱に拡張した可能性がある。

推定住居跡②：2土、10・19・23号ピットの4つであり、底部の標高が739.459~739.547mの8.8cmの範囲に収まる。西半分の柱穴は調査区外に展開していると考えられる。2土と23号ピットが近接しているため、全てが同時期とは限らないであろう。

推定住居跡③：4・15・16・24号ピットの4つで、底部の標高は738.937~739.252mの31.5cmの範囲に収まる。

24号以外の3つのピットは739.137~739.252mの11.5cmの範囲に収まる。24号がやや離れており、底部の標高も他と比べ低いのであるが、他3つのピットの並びで径を出してみると、24号がその延長線上にあるので、これに加えた。

これらの推定住居跡は、柱穴の配置に多少無理があるものもあり、あくまでも推定の範囲を超えるものではない。しかし、各ピットの底部標高を比較しただけでも、ある程度の結果が得られることを示していると思われる。

3. 平安時代

1号住居跡 (第8~10図)

(位置) 調査区南寄りから発見された。

(重複) 1号溝に切られている。

(形状) 隅丸方形を呈する。

(床面) 炉周辺が固くしまっているほかは、さほど踏み固められてはいない。

(施設) 東壁中央やや南よりにカマドが構築されていた。袖石は右側の奥のものしか残っておらず、天井石に使用したと思われる偏平礫が床面と同じ高さで出土した。また、カマドを構築していた礫と同じような大きさの礫が、カマドの南側の南東隅にある貯蔵穴の上部から出土している。

床面中央に焼土があり、その下には落ち込みが確認できた。西壁中央やや北よりの周溝から中央に向け間仕切りと考えられる溝が確認できた。

南壁の中央付近にはピットが数基まとまって発見され、入り口施設を構築した際のものと考えられる。

(遺物) 第9図。各遺物の詳細は第5表に譲る。甲斐型土器を中心に出土し、一番多く出土したのが甲斐型甕である。甲斐型坏は数個体出土しており、そのほとんどの体部内面に暗文が施されている。

墨書土器は2点出土した(第9図14・15)。どちらも欠損しており、全体の文字等は確認できなかった。

武蔵型甕が出土し(第9図31・32)、口縁部はナデ、頸部に強いナデが施され、それ以下はヘラケズリされている。石製品では砥石が1点出土した(第9図33)。

(遺物出土状況) 第10図に代表的な器種の出土状況を示す。甲斐型坏は住居の南側中央からの出土が多く、床直よりも住居覆土からの出土が多い。

甲斐型甕は最も数多く出土し、カマドと貯蔵穴の床面近くからの出土が多い。住居が廃絶されるとき一緒に廃棄されていることを示しているであろう。

黒色坏・須恵器坏は住居南側中央やや東よりの出土が多いが、黒色坏は床面に近いが、須恵器坏は住居覆土中が多い。

武蔵型甕は貯蔵穴周辺と北壁中央から出土し、どちら

も床面に近い。

甲斐型甕・武蔵型甕・黒色坏が床面からの出土が多く、住居の廃絶時期と近い時期に埋まったと考えられ、より住居使用時期に近い土器と言えよう。甲斐型坏・須恵器坏は住居覆土中の出土が多く、甲斐型甕等より時期が新しい可能性もある。

(時期) 第9図1より甲斐型土器編年Ⅷ期、宮ノ前編年Ⅵ期(9世紀中頃)と考えられる。

4. その他

1号溝(第7図)

(位置) 調査区の東側を南北に走る。

(重複) 1号住居跡、ピット群の一部を切っている。

(形状) 幅約80cmの溝の西側に、幅約20cmの細い溝が2本並行する。その細い溝は、一部掘りすぎのため、切れたようになっているが、調査区の南北を貫いている。太い溝の底面に幅約30cmの溝がある。どれも同じように並行しているので、同時期の可能性が高い。調査区の東を通る現在の町道とも、並行していると考えられる。

(遺物) 遺物は縄文土器を中心に出土しているが、土層観察の結果明らかのように、平安時代の1号住居跡の上に作られているので、ほとんどが流れ込みによる出土である。

(時期) 平安時代の1号住居跡の後に作られたので、平安時代以降のものである。

第4章 1号住居跡出土炭化材の年代と樹種

パリオ・サーヴェイ株式会社

1. はじめに

窪田遺跡は、八ヶ岳南麓の甲川と泉川に挟まれた台地上に位置する。本遺跡では、発掘調査により、縄文時代と考えられるピットや平安時代の住居跡等の遺構が検出されている。平安時代の住居跡(1号住)は、焼失住居跡と考えられ、住居構築材等に由来すると考えられる炭化材が出土している。本住居跡から出土した土器は、甲斐型土器編年Ⅷ期(AD820~840)または宮ノ前遺跡編年Ⅵ期(AD830~860)に対比され、9世紀中頃の構築と考えられている。

本報告では、住居跡から出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行い、出土遺物による年代観との対比することにより住居構築年代を検討する。また、炭化材の樹種同定を併せて実施し、木材利用に関する資料を得る。

2. 試料

試料は、1号住から出土した炭化材15点の中から選択

された10点である(第12図)。各試料の詳細は、測定結果・同定結果と共に第2表に記した。

3. 方法

(1) 放射性炭素年代測定

測定は、加速器質量分析法(AMS法)で行い、放射性炭素の半減期はLIBBYの5568年を使用する。なお、測定は、株式会社加速器分析研究所の協力を得た。

(2) 樹種同定

木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

4. 結果

放射性炭素年代測定および樹種同定結果を第2表に示す。年代測定値は、1310BP(補正年代1280BP)~1150BP(補正年代1140BP)で1点を除いて1150BP(補正年代1140BP)~1220BP(補正年代1210BP)の70年間に集中する。これらの炭化材の樹種は、いずれも落葉広葉樹で、コナラ属コナラ亜属クヌギ節とコナラ属コナラ亜属コナラ節の2種類に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節(*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

5. 考察

(1) 1号住の年代

1号住は、出土した土器が甲斐型土器編年Ⅷ期(AD820~840)または宮ノ前遺跡編年Ⅵ期(AD830~860)に対比されることから、9世紀中頃の構築と考えられている。得られた年代は、1310BP(補正年代1280BP)~1150BP(補正年代1140BP)で1点を除いて1150BP(補正年代1140BP)~1220BP(補正年代1210BP)の70年間に集中する。これらの年代値は、推定されている出土遺物の年代よりもやや古い値である。ここでこれらの補正

年代値について、INTCAL98 (Stuiver et al.) を用いた暦年較正を行うと、約半数の試料で複数 (3~5) の交点が見られ、歴年代としてはAD695~AD935までの年代が算出される。とくに、AD780~885に年代が集中し、年代に幅があるものの、推定年代ともほぼ一致する。年代の幅は、試料の樹齢の問題等によると考えられる。

(2) 木材利用

炭化材は、住居の床面または覆土から出土しており、構築材等に由来する可能性がある。樹種はコナラ節とクヌギ節であった。いずれも重硬で強度が高い材質を有している。長坂町内では、大字中丸字新代に所在する健康村遺跡で平安時代の住居構築材35点について樹種同定を行った例が報告されている (パリノ・サーヴェイ株式会社, 1994)。その結果では、針葉樹 (スギ・スギ近似種・ヒノキ属近似種) が3点、広葉樹のハリギリが1点認められた他は、31点がクヌギ節とコナラ節で占められており、今回の結果とも一致する。

クヌギ節は、現在の植生を考慮すればクヌギの可能性が高い。また、コナラ節は、コナラまたはミズナラが考えられるが、クヌギ節と共に出土していることからコナラの可能性がある。クヌギとコナラは、人里周辺の二次林 (雑木林) の主構成種である。このことから、遺跡周辺にクヌギやコナラの生育する二次林が見られ、そこから強度の高い木材を選択して構築材等に利用したことが推定される。

今後、古植生に関する調査も行い、各時期の周辺植生と木材利用・植物利用に関する検討を行いたい。

引用文献

- パリノ・サーヴェイ株式会社 (1994) 健康村遺跡自然科学分析調査報告。「山梨県北巨摩郡長坂町健康村遺跡 — (仮称) 東京都新宿区立区民健康村建設事業に伴う発掘調査報告書—」, p.116-128, 新宿区区民健康村遺跡調査団。
- Stuiver, M., Reimer, P.J., Bard, E., Beck, J.W., Burr, G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., van der Plincht, J. and Spurk, M. (1998) INTCAL98 radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. *Radiocarbon*, 40, p.1041-1083.

第5章 調査の成果と課題

今回の調査では、縄文時代の土坑やピット群、平安時代の竪穴住居跡が発見された。

縄文時代では堀之内式土器が土坑から出土し、ピット

群が発見され、その一部が住居の柱穴である可能性を指摘した。それは、各ピットの底部標高でグループ分けした結果に基づき推定したものである。すべての住居跡柱穴の底面標高が必ずしも一定とは限らないが、ある程度は有効であると考えられる。

平安時代では1軒ではあるが竪穴住居跡が確認され、柳坪A・B遺跡から木ノ下・大坪遺跡の間も集落があった事が判明した。本遺跡周囲の調査事例は、石原田遺跡、柳坪A遺跡、柳坪B遺跡、柳坪南遺跡、境原遺跡、柳新居遺跡、小和田遺跡、小屋敷遺跡、南新居西遺跡、深草遺跡、木ノ下・大坪遺跡、寺所遺跡、寺所第2遺跡と数多く、特に9世紀後半から10世紀前半の集落が圧倒的に多い。長坂I.Cを中心にした地域で、平安時代集落が広範囲に広がっていることが確認されている。半径約1kmの中でこれほど平安時代の住居跡が多数調査されている地域は少なく、集落範囲を検討するのに好都合と言える。

この地域は地形を見ても緩斜面に幾筋もの小河川が流れ、そのため南北に細長い低い舌状台地のようになっている所である。1遺跡=1集落と言えなくもないが、複数の遺跡で同一集落を構成していたとも考えられる。集落は地理的条件で分けられるであろうが、この地域の集落間の境界はどこにあたるのかを、今後、時期別の住居分布を見ることで検討していきたい。

参考文献

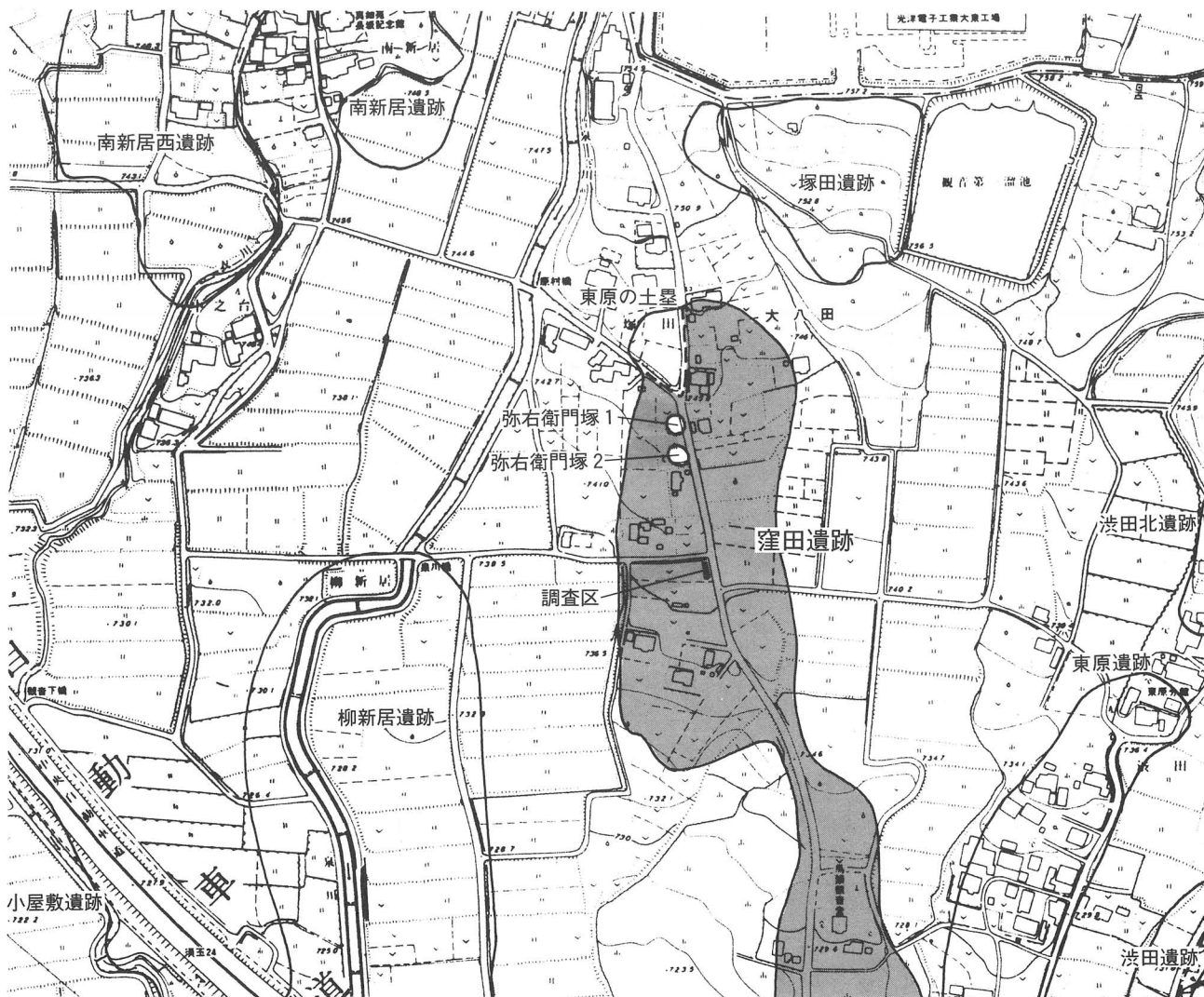
- 萩原三雄 1986「八ヶ岳南麓における平安集落の展開」『山梨県考古学論集I』山梨県考古学協会
- 長坂町誌編纂委員会 1990『長坂町誌』上巻 長坂町
- 岡本範之 1990「平安期における甲斐国巨摩郡の動向」『山梨県考古学協会誌』第3号 山梨県考古学協会
- 平野 修・榊原功一 1992『宮ノ前遺跡』葦崎市遺跡調査会
- 甲斐型土器研究グループ 1992『甲斐型土器 —その編年と年代—』山梨県考古学協会
- 小宮山隆 1997『小屋敷遺跡』長坂町教育委員会
- 山梨県 1998『山梨県史』資料編1 原始・古代1 考古 (遺跡) 山梨日日新聞社
- 山梨県 1999『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古 (遺構・遺物) 山梨日日新聞社
- 宮澤公雄 2000『紺屋遺跡 —第2次発掘調査報告書—』紺屋遺跡発掘調査団
- 伊藤公明他 2000『寺所遺跡 (第2次発掘調査報告)』大泉村教育委員会



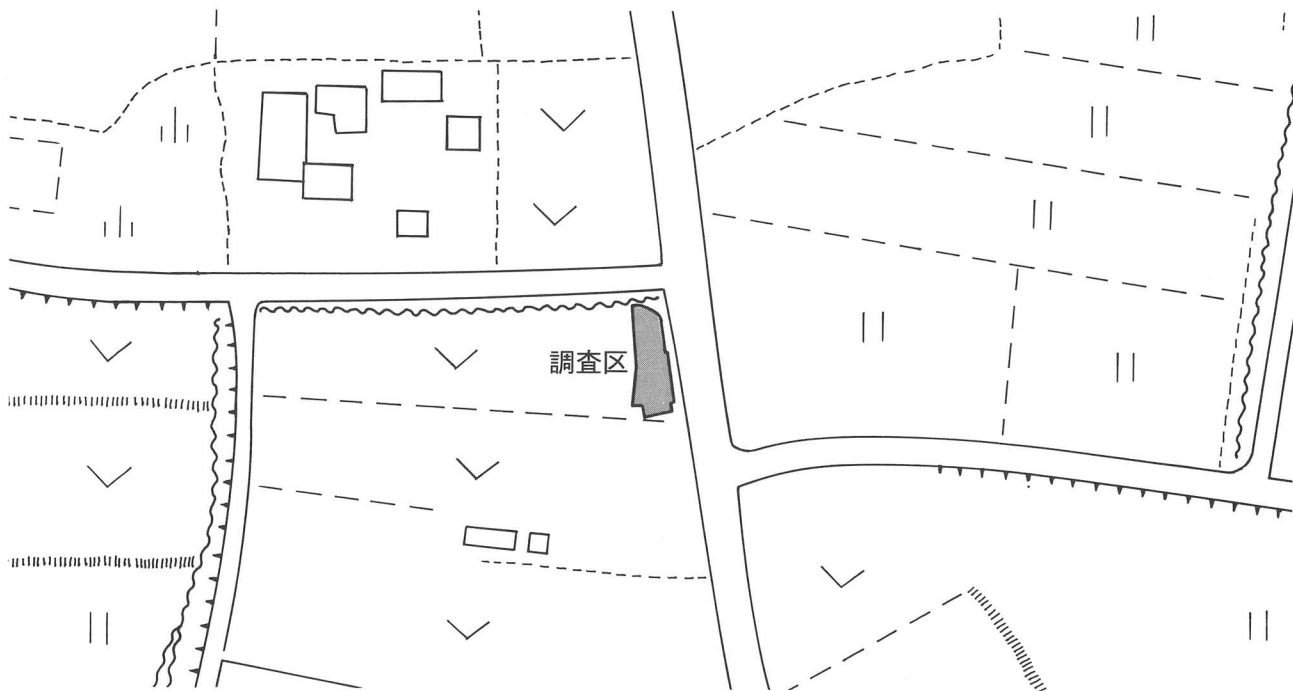
第1図 長坂町遺跡分布図 (1/25,000)

第1表 長坂町遺跡地名表

009	糝屋敷東遺跡	縄	040	別当遺跡	縄	063	柳坪B遺跡	縄・弥・古・平	114	大々神A遺跡	平	
010	糝屋敷北遺跡	縄	041	別当西遺跡	縄	064	小屋敷遺跡	縄・平・中	120	頭無遺跡	縄	
011	糝屋敷遺跡	縄	042	別当十三塚	中	065	久保地遺跡	縄	163	横針・中山遺跡	中	
012	牛久保遺跡	縄・弥	043	南新居北遺跡	縄・平・中	066	成岡遺跡	縄・弥・平・中	164	大林遺跡	旧・縄・平・江戸	
013	牛久保南遺跡	縄	044	深草館跡	戦国	067	成岡新田遺跡	弥・平・中	168	上町南遺跡	縄	
014	沢入遺跡	菅沼氏館跡	縄	045	小和田遺跡	縄・平・中	068	曲田遺跡	縄・平	173	新宿区健康村遺跡	旧・縄・平・中・江戸
015	芋干平遺跡	縄	046	南新居屋敷跡	平・中	070	石原田南遺跡	縄・平	181	柳坪南遺跡	平	
016	東下屋敷遺跡	縄	047	南新居遺跡	平	071	塚原遺跡	縄	182	柳坪北遺跡	縄・弥・平・中	
017	西下屋敷遺跡	縄・中	048	南新居西遺跡	平	072	越中久保遺跡	縄・平・中・江戸	183	境原遺跡	縄・弥・平	
018	新田森遺跡	縄	049	小和田館跡	平・戦国・江戸	073	久保遺跡	縄	192	芋干平の土塁		
019	西下屋敷南遺跡	縄	050	米山遺跡	縄・弥	074	房屋敷遺跡	縄・江戸	193	成岡・藤塚		
020	横手遺跡	縄・中	051	米山東遺跡	縄	080	和手山東遺跡	中	194	馬越塚	中	
021	神の原遺跡	縄	052	塚田遺跡	古・平	081	小尾平遺跡	旧・縄・中	196	治郎田北遺跡	平	
022	屋敷附遺跡	縄・中	★053	窪田遺跡	縄・古・平	082	間の原遺跡	縄	197	竹原遺跡	縄・中・江戸	
023	内城遺跡	縄	054	弥右衛門塚1	古?	086	和手遺跡	縄・平	198	天白砦跡	中・戦国	
024	十郎林遺跡	縄・中	055	弥右衛門塚2	古?	087	腰巻遺跡	縄	201	横針・前久保遺跡	旧・縄	
025	阿原遺跡	平	056	渋谷北遺跡	平	099	鳥久保遺跡	縄・江戸	202	横針・宮久保遺跡	縄・平	
026	中尾根遺跡	縄	057	渋谷遺跡	弥・平・中	100	高松遺跡	縄	203	深草遺跡	平	
028	夫婦岩遺跡	縄	058	東原の土塁	中	101	上町遺跡	縄・奈	205	中田遺跡	縄	
030	横山2遺跡	縄	059	東原遺跡	中	109	柿平・藤塚		207	池之窪遺跡	縄・平	
031	横山平南遺跡	縄	060	柳新居遺跡	縄・古・平	111	白山神社前遺跡	縄・平	208	段道遺跡	旧・縄	
032	葛原北遺跡	縄	061	原田遺跡	縄・平	112	上ノ屋敷遺跡	縄・平・中・江戸				
037	葛原遺跡	縄・弥	062	柳坪A遺跡	縄・弥・古・平	113	大々神十三塚	中				

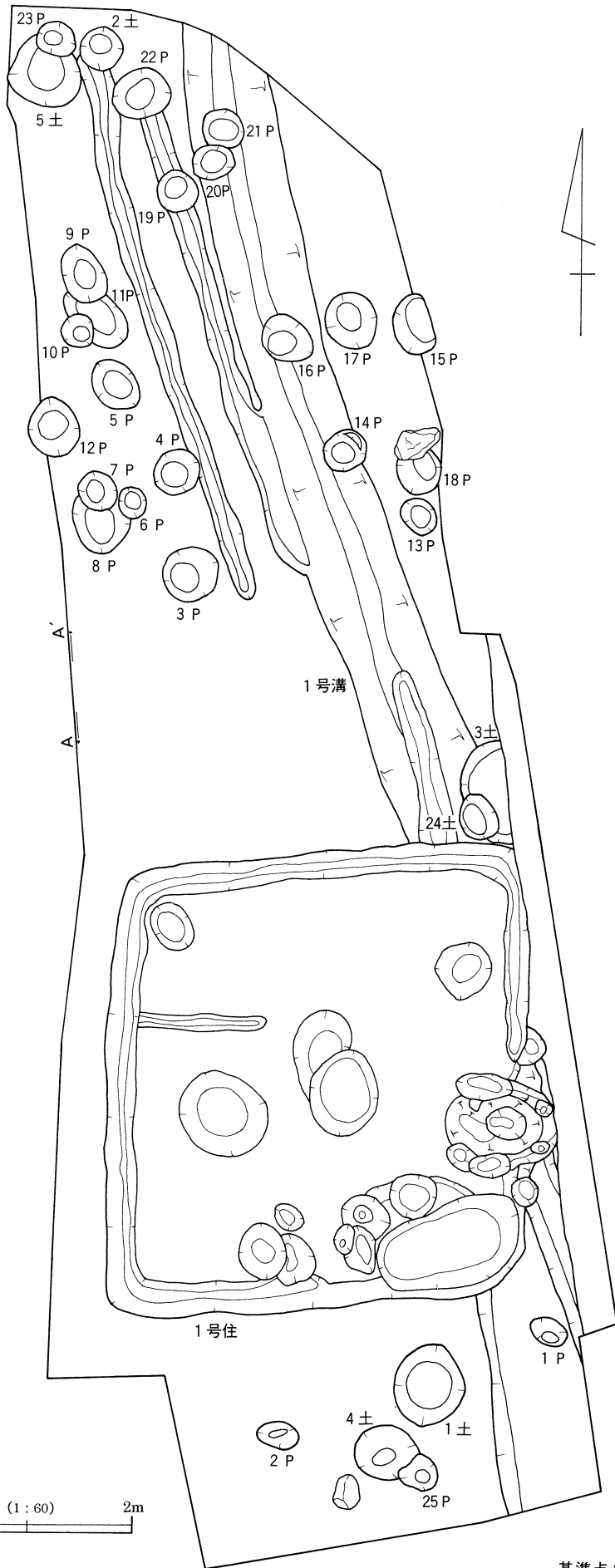


第2図 窪田遺跡周辺の遺跡分布図 (1/5,000)

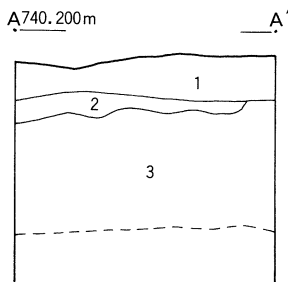


第3図 調査区位置図 (1/1,000)

基準点 1



基本層序



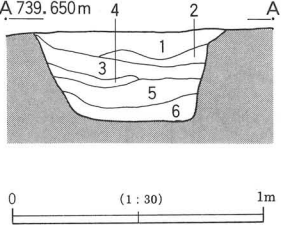
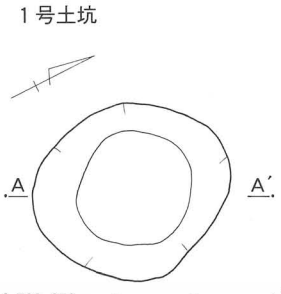
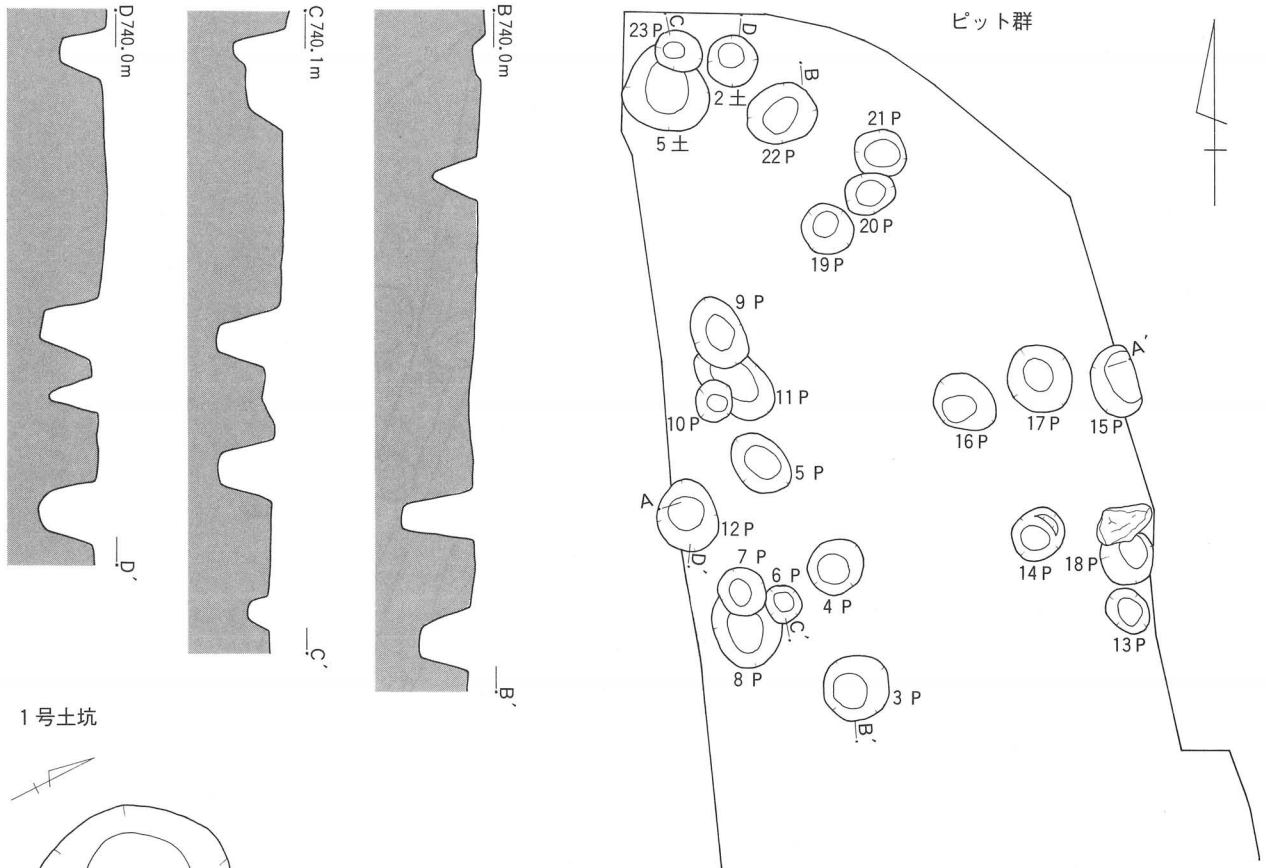
基本層序

- 1. 暗褐色土層 耕作土。
- 2. 暗褐色土層 1層より暗い、黄褐色土少量含む、炭化物少量含む。
- 3. 黄褐色土層 小礫多量に含む、地山、上層は2層との漸移層、暗褐色土が混じる。

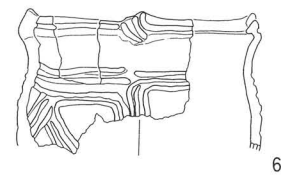
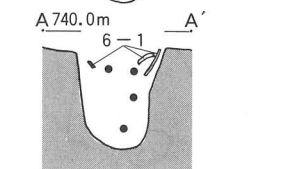
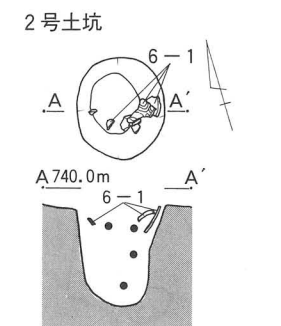
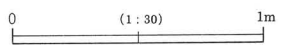
基準点 2



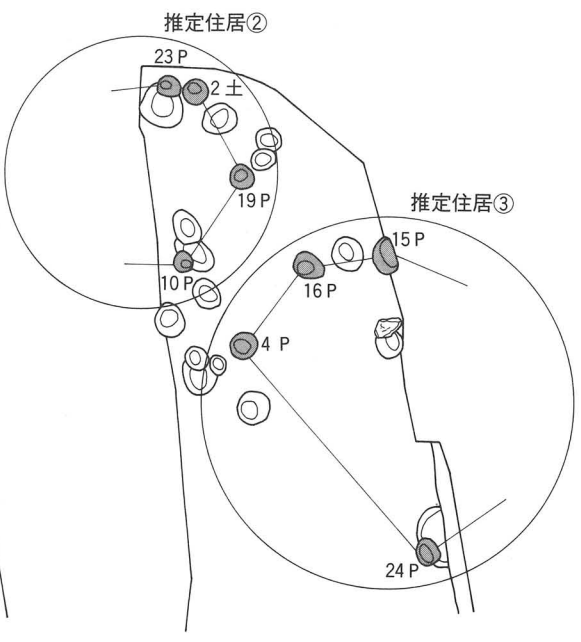
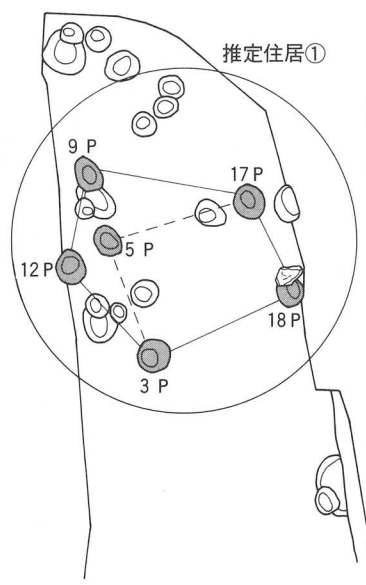
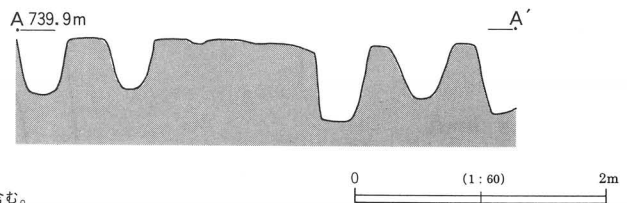
第4図 調査区全体図・基本土層断面図



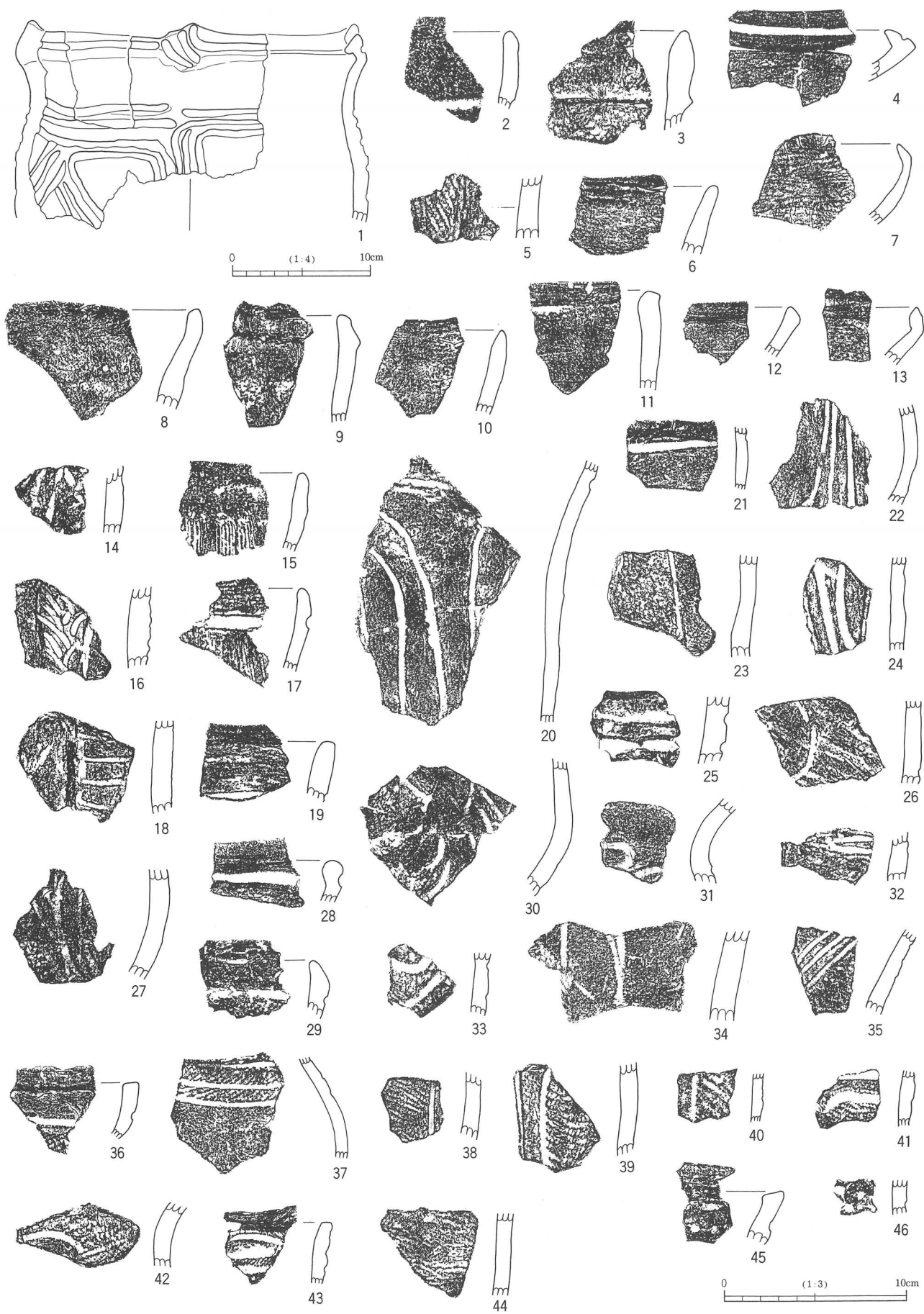
- 1号土坑
1. 暗褐色土層 黄褐色土少量含む、小礫やや多量に含む。
 2. 茶褐色土層 暗褐色土少量含む。
 3. 暗褐色土層 1層より明るい、黄褐色土やや多量に含む、5mm ローム粒少量含む。
 4. 茶褐色土層 黄褐色土少量含む。
 5. 暗褐色土層 3層より暗い、黒褐色土やや多量に含む、1cm ローム粒少量含む。
 6. 茶褐色土層 黄褐色土少量含む。



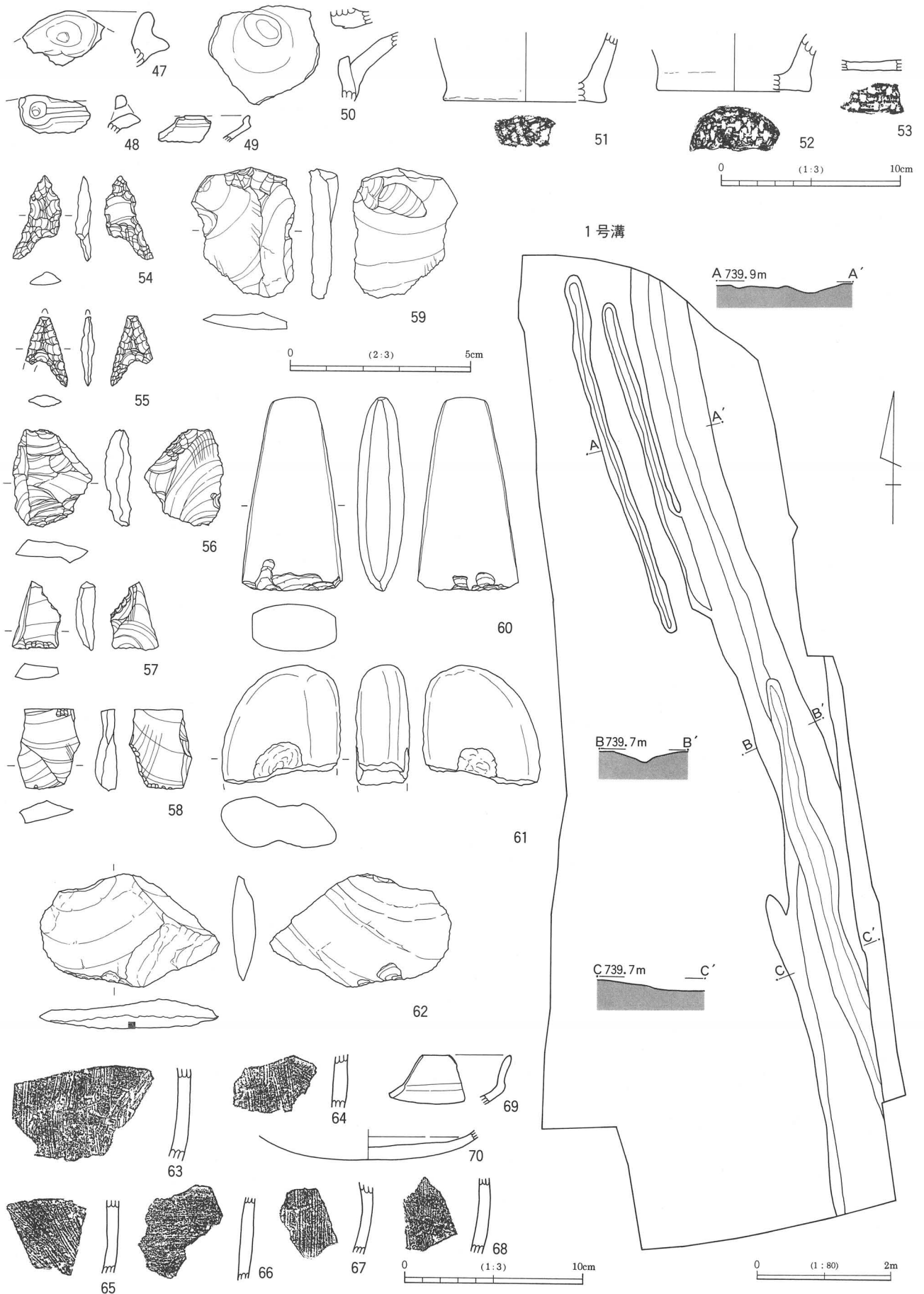
6-1



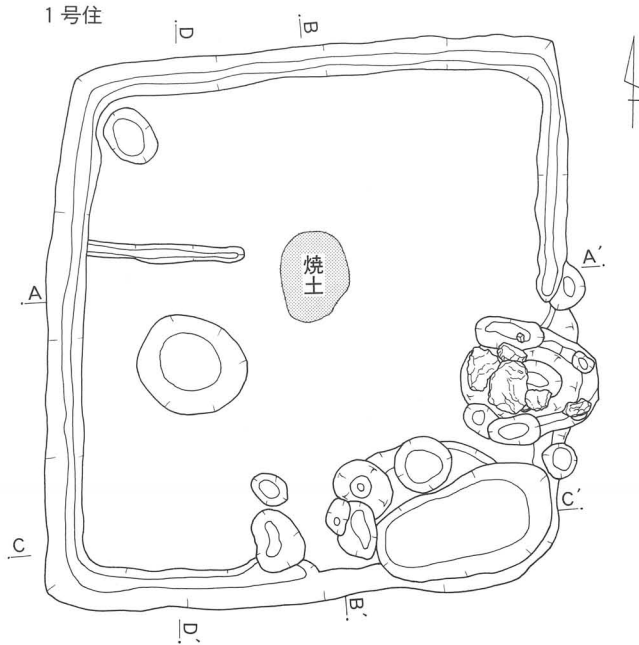
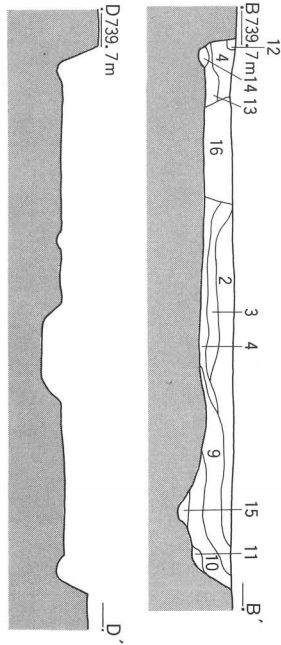
第5図 ピット群、1・2号土坑、住居跡推定図



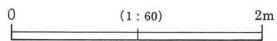
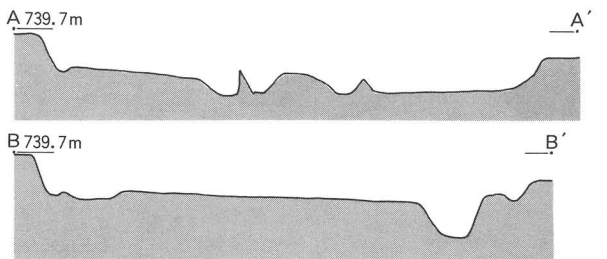
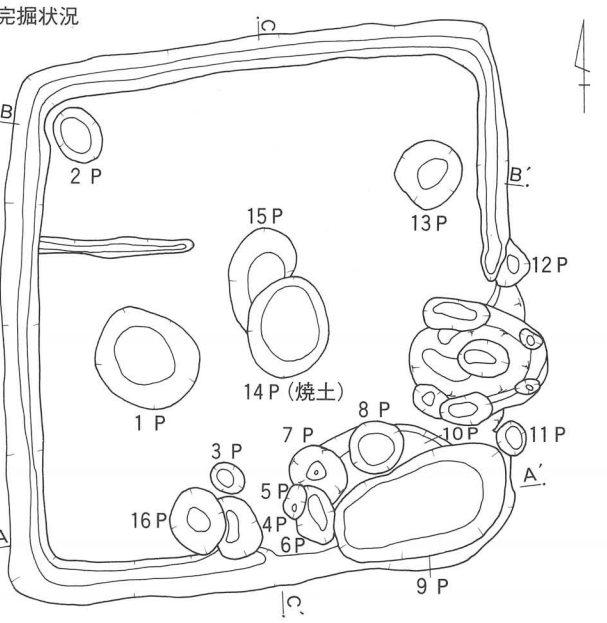
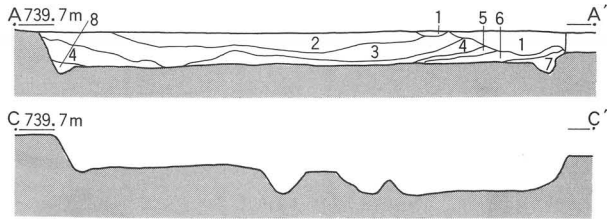
第6図 縄文土器



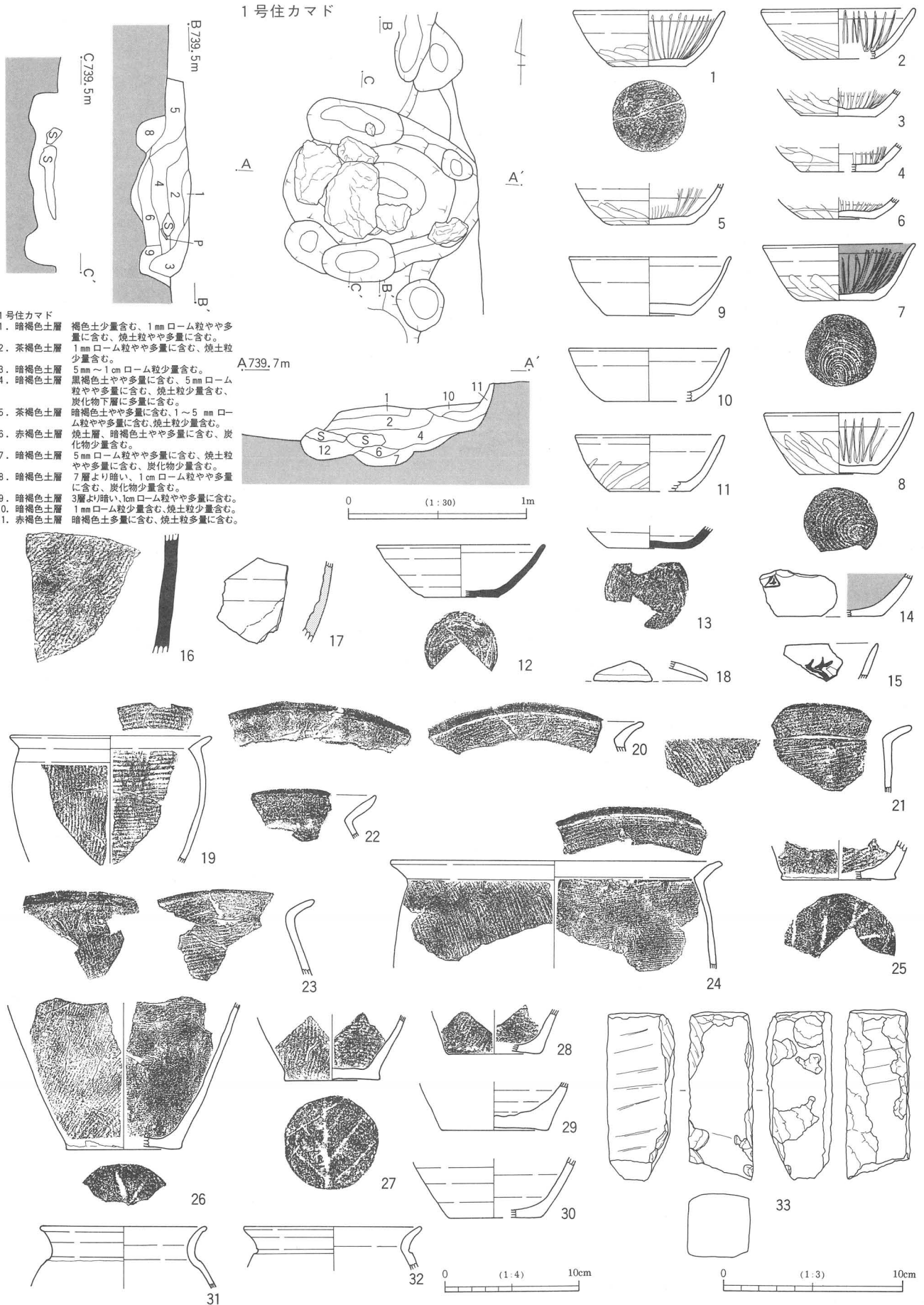
第7図 縄文土器・石器、古墳時代土師器、1号溝



- 1号住
1. 暗褐色土層 1号溝の覆土、1~5mmローム粒少量含む、他の暗褐色土より明るい。
 2. 暗褐色土層 1層より暗い、1~5mmローム粒多量に含む、小礫やや多量に含む。
 3. 暗褐色土層 2層より明るい、1層より暗い、1~5mmローム粒多量に含む、小礫多量に含む、焼土粒多量に含む、炭化物多量に含む。
 4. 暗褐色土層 3層より暗い、1~5mmローム粒多量に含む、炭化物少量含む、焼土粒少量含む。
 5. 茶褐色土層 暗褐色土多量に含む、焼土粒多量に含む。
 6. 暗褐色土層 1層より暗い、1~5mmローム粒やや多量に含む、焼土粒少量含む。
 7. 暗黄褐色土層 暗褐色土やや多量に含む、1mmローム粒少量含む。
 8. 暗黄褐色土層 暗褐色土多量に含む、黄褐色土ブロック多量に含む。
 9. 暗褐色土層 2層より暗い、5mmローム粒少量含む、焼土粒多量に含む、小礫多量に含む、炭化物少量含む。
 10. 暗褐色土層 9層より暗い、1mmローム粒やや多量に含む、焼土粒やや多量に含む。
 11. 暗黄褐色土層 暗褐色土やや多量に含む。
 12. 黄褐色土層
 13. 暗褐色土層 4層より暗い、1~5mmローム粒やや多量に含む、小礫多量に含む、炭化物少量含む。
 14. 茶褐色土層 黄褐色土やや多量に含む、暗褐色土やや多量に含む。
 15. 暗褐色土層 10層より暗い。
 16. 試掘トレンチ
 17. 攪乱

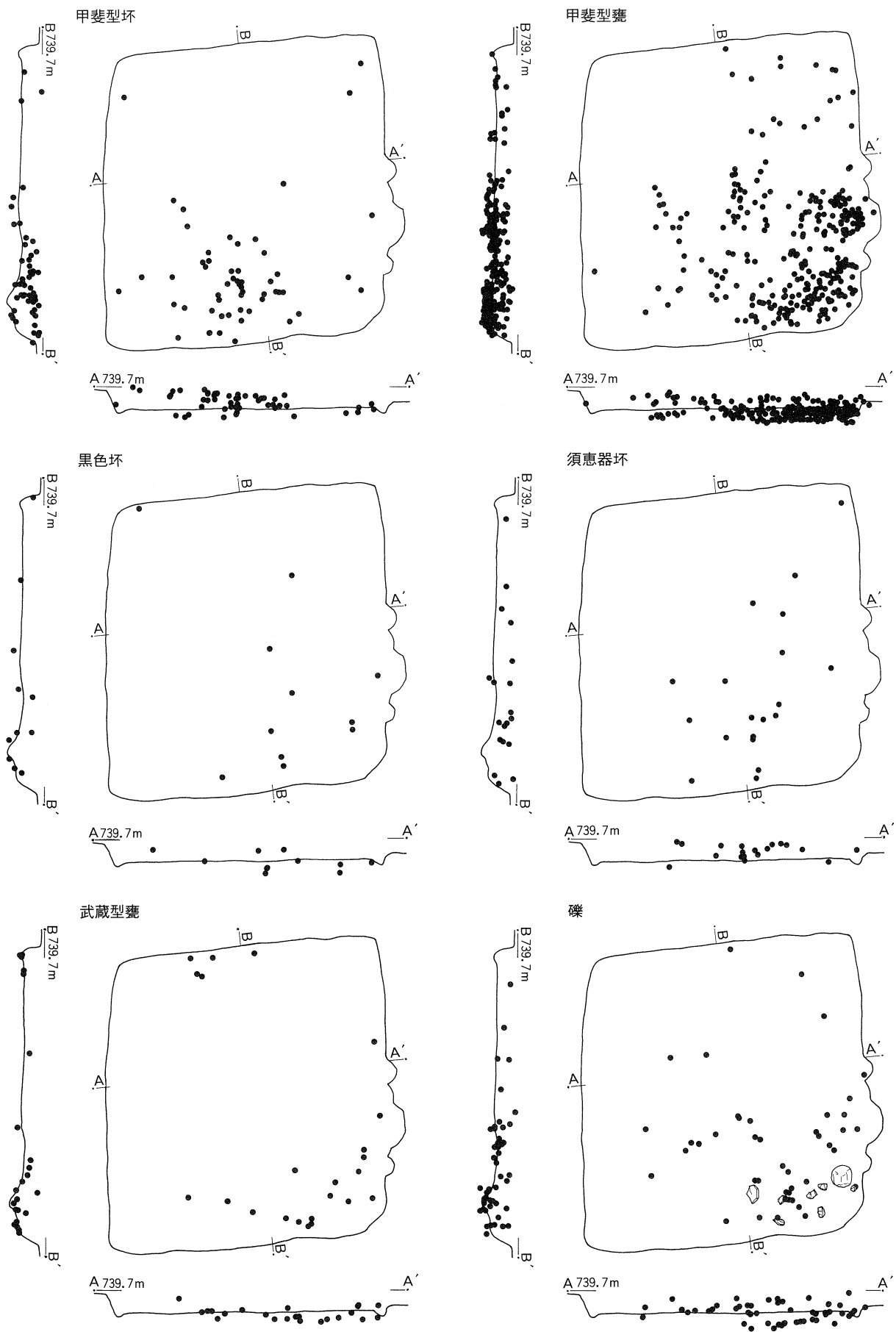


第8図 1号住居跡



- 1号住カマド
1. 暗褐色土層 褐色土少量含む、1mmローム粒やや多量に含む、焼土粒やや多量に含む。
 2. 茶褐色土層 1mmローム粒やや多量に含む、焼土粒少量含む。
 3. 暗褐色土層 5mm～1cmローム粒少量含む。
 4. 暗褐色土層 黒褐色土やや多量に含む、5mmローム粒やや多量に含む、焼土粒少量含む、炭化物下層に多量に含む。
 5. 茶褐色土層 暗褐色土やや多量に含む、1～5mmローム粒やや多量に含む、焼土粒少量含む。
 6. 赤褐色土層 焼土層、暗褐色土やや多量に含む、炭化物少量含む。
 7. 暗褐色土層 5mmローム粒やや多量に含む、焼土粒やや多量に含む、炭化物少量含む。
 8. 暗褐色土層 7層より暗い、1cmローム粒やや多量に含む、炭化物少量含む。
 9. 暗褐色土層 3層より暗い、1cmローム粒やや多量に含む。
 10. 暗褐色土層 1mmローム粒少量含む、焼土粒少量含む。
 11. 赤褐色土層 暗褐色土多量に含む、焼土粒多量に含む。

第9図 1号住カマド、1号住出土遺物

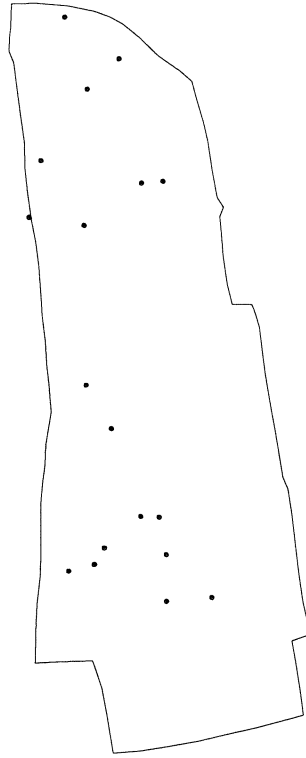


第10図 1号住遺物出土状況

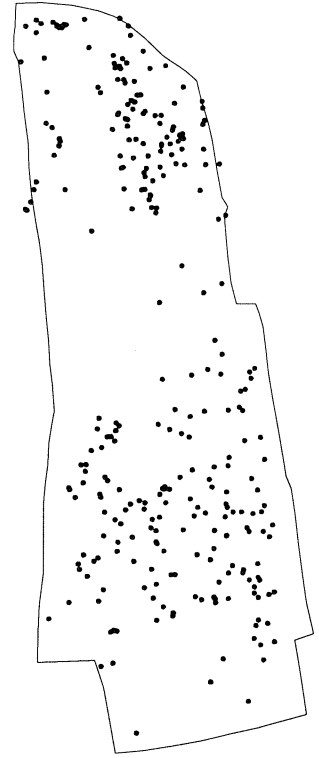
土器全体



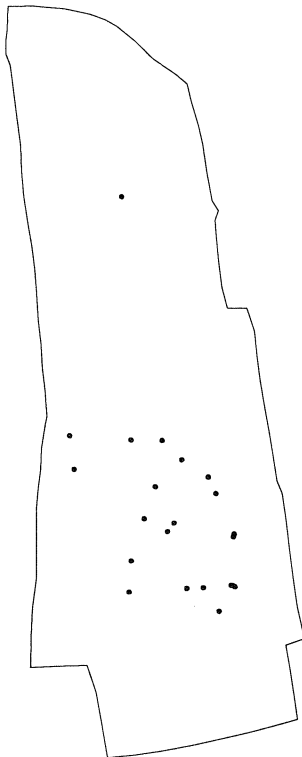
縄文中期土器



縄文後期土器



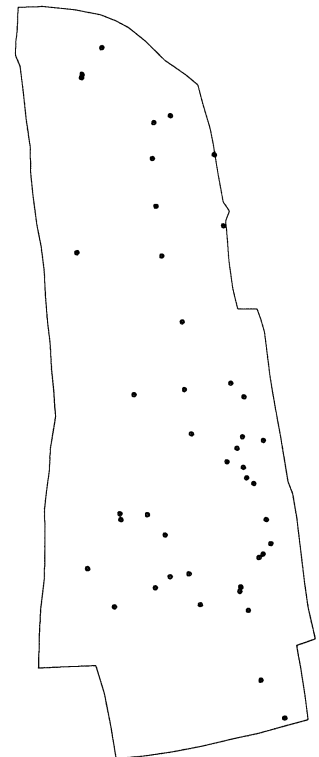
古墳時代土師器



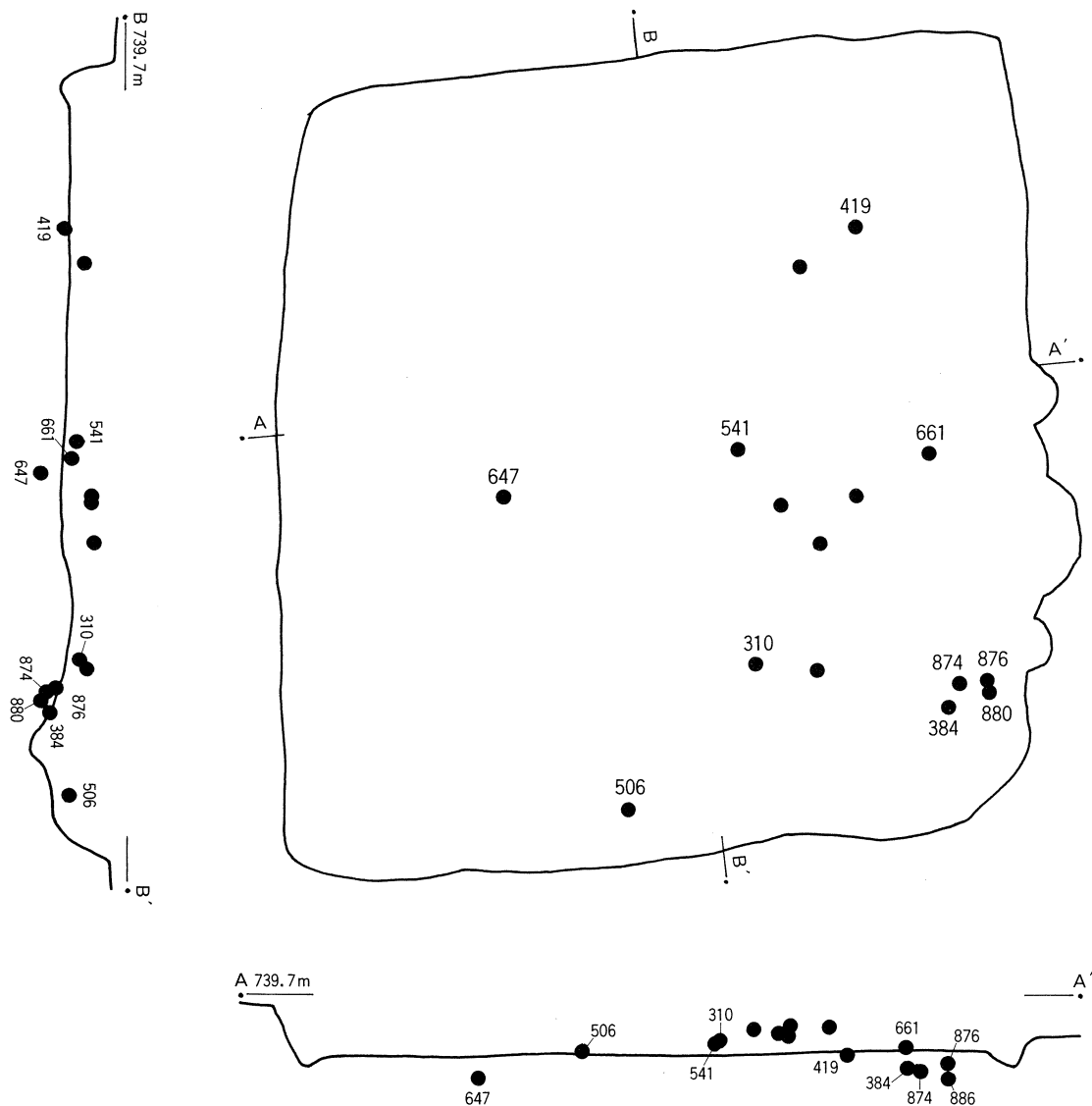
平安時代土器



石器・黒曜石



第11図 調査区遺物出土状況



第12図 1号住炭化材出土状況

第2表 1号住出土炭化材分析結果

番号	出土位置	樹種	測定年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	補正年代 BP	Code. No.
310	住居中央南寄り	コナラ属コナラ亜属コナラ節	1200±30	-24.77±0.63	1200±30	IAAA-11880
384	貯蔵穴	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1310±30	-28.58±0.61	1280±30	IAAA-11881
419	住居中央北東寄り	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1150±20	-26.54±0.62	1140±20	IAAA-11882
506	南壁中央	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1220±30	-25.83±0.65	1210±30	IAAA-11883
541	住居中央	コナラ属コナラ亜属コナラ節	1180±40	-23.97±0.68	1180±40	IAAA-11884
647	1号ピット内	コナラ属コナラ亜属コナラ節	1170±30	-25.37±0.66	1170±30	IAAA-11885
661	カマド北側	コナラ属コナラ亜属コナラ節	1170±30	-26.60±0.76	1160±30	IAAA-11886
874	貯蔵穴	コナラ属コナラ亜属コナラ節	1220±30	-25.40±0.63	1210±30	IAAA-11887
876	貯蔵穴	コナラ属コナラ亜属コナラ節	1170±30	-25.73±0.64	1160±30	IAAA-11888
880	貯蔵穴	コナラ属コナラ亜属コナラ節	1200±30	-24.22±0.72	1200±30	IAAA-11889

1) 測定は、加速器質量分析法 (AMS法) による。

2) 年代は、1950年を基点とした年数で、補正年代は $\delta^{13}C$ の値を基に同位体効果による年代誤差を補正した値。

3) 放射性炭素の半減期は、5568年を使用した。

第3表 1号住居跡内ピット一覧

番 号	長 軸 (cm)	短 軸 (cm)	深 さ (cm)	備 考
1住ピット1	86.5	76.0	17.0	
1住ピット2	48.5	37.0	8.0	
1住ピット3	31.5	25.0	8.0	
1住ピット4	49.0	(38.0)	20.0	
1住ピット5	28.5	18.0	11.0	
1住ピット6	48.0	32.5	15.0	
1住ピット7	48.0	(38.0)	25.0	
1住ピット8	44.0	42.0	17.5	
1住ピット9	145.0	80.0	28.0	貯蔵穴
1住ピット10	(105.0)	(42.5)	11.0	
1住ピット11	27.0	25.0	5.5	
1住ピット12	(39.0)	(12.5)	11.0	
1住ピット13	55.0	52.0	35.0	
1住ピット14	82.5	65.5	15.0	焼土
1住ピット15	(88.0)	(61.5)	13.0	
1住ピット16	55.0	45.0	18.5	

第4表 土坑・ピット一覧

遺 構 名	出土位置	長 軸 (cm)	短 軸 (cm)	深 さ (cm)	底面標高	備 考
1号土坑	1住の南	78.0	69.0	35.0	739.257m	
2号土坑	ピット群内	41.0	38.0	38.0	739.547m	推定住居②
3号土坑	1住の北	100.0	(43.0)	26.0	739.372m	
4号土坑	1住の南	66.0	54.0	22.5	739.363m	
5号土坑	ピット群内	69.0	(66.0)	35.0	739.617m	
1号ピット	1住の南	36.0	26.0	29.0	739.208m	
2号ピット	1住の南	37.5	25.0	10.5	739.459m	
3号ピット	ピット群内	54.0	50.0	42.0	739.398m	推定住居①
4号ピット	ピット群内	45.0	41.0	58.5	739.252m	推定住居③
5号ピット	ピット群内	55.0	40.5	44.5	739.414m	推定住居①
6号ピット	ピット群内	30.0	29.0	20.5	739.626m	
7号ピット	ピット群内	40.0	35.5	27.5	739.532m	
8号ピット	ピット群内	(59.0)	53.0	16.5	739.665m	
9号ピット	ピット群内	59.0	42.0	51.5	739.365m	推定住居①
10号ピット	ピット群内	33.5	31.0	41.0	739.459m	推定住居②
11号ピット	ピット群内	(72.0)	(41.0)	13.5	739.740m	
12号ピット	ピット群内	56.0	47.0	45.5	739.394m	推定住居①
13号ピット	ピット群内	36.5	31.5	18.0	739.553m	現代?
14号ピット	ピット群内	43.0	37.0	24.0	739.520m	現代?
15号ピット	ピット群内	54.0	(37.5)	61.5	739.220m	推定住居③
16号ピット	ピット群内	50.0	46.0	65.5	739.137m	推定住居③
17号ピット	ピット群内	52.5	50.0	47.5	739.341m	推定住居①
18号ピット	ピット群内	45.0	41.5	43.0	739.331m	推定住居①
19号ピット	ピット群内	39.0	39.0	39.0	739.499m	推定住居②
20号ピット	ピット群内	42.0	31.0	32.0	739.551m	
21号ピット	ピット群内	39.0	35.5	14.5	739.677m	
22号ピット	ピット群内	56.0	45.5	14.5	739.778m	
23号ピット	ピット群内	38.5	33.5	44.5	739.520m	推定住居②
24号ピット	1住の北	45.5	38.5	64.5	738.937m	推定住居③
25号ピット	1住の南	39.0	37.0	20.5	739.026m	

第5表 土器観察表

図版	番号	出土位置	時期	土器種別	器種	部位	重量	備考	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	その他(cm)	焼成	胎	土	色	調	調整
第6図	1	2号土坑	縄文	後期	深鉢	口縁	353.7	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)暗赤褐、にぶい赤褐(内)黒褐、灰黄褐、褐			
第6図	2	2号土坑	縄文	後期	深鉢	胴部	21.7	微隆起					やや不良	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)橙、にぶい赤褐(内)にぶい橙			
第6図	3	ピット4	縄文	後期	深鉢	口縁	49						良好	長石、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい橙(内)にぶい橙			
第6図	4	ピット19	縄文	中期中葉	深鉢	口縁	27.7	沈線					良好	長石、黒雲母、赤色粒子	(外)黒褐、にぶい橙(内)にぶい橙、灰褐			
第6図	5	1号土坑	縄文	後期	深鉢	胴部	28.2	縄文					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)橙(内)にぶい赤褐			
第6図	6	ピット21	縄文	後期	深鉢	口縁	22.1	無文					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい黄褐(内)にぶい黄橙			
第6図	7	ピット20	縄文	後期	深鉢	口縁	20.8	無文					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)浅黄橙、にぶい黄橙(内)浅黄橙			
第6図	8	試掘	縄文	後期	深鉢	口縁	39.6	微隆起					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい褐、灰褐(内)にぶい橙、灰褐			
第6図	9		縄文	後期	深鉢	口縁	25.5	無文					良好	長石、石英、黒雲母	(外)明赤褐(内)赤褐			
第6図	10		縄文	後期	深鉢	口縁	37.7	無文					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい橙(内)にぶい褐			
第6図	11		縄文	後期	深鉢	口縁	10.2	無文					良好	長石、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)明赤褐(内)黒褐			
第6図	12	1号溝	縄文	後期	深鉢	口縁	10.6	無文					良好	長石、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)明褐、にぶい褐(内)黒褐			
第6図	13	ピット24	縄文	中期末	深鉢	胴部	18.8	沈線					良好	長石、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)明褐、にぶい褐(内)にぶい橙、灰褐、褐灰			
第6図	14	1号溝	縄文	中期末	深鉢	口縁	23.5	柳楕					やや不良	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい褐(内)橙			
第6図	15	試掘	縄文	中期末	深鉢	胴部	40.6	沈線					良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい褐(内)橙			
第6図	16	試掘	縄文	中期末	深鉢	胴部	18.8	沈線、条線					良好	長石、金雲母、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい褐			
第6図	17	1号住	縄文	後期	深鉢	口縁	52.5	沈線、隆帯					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい橙、にぶい褐(内)にぶい橙、にぶい褐			
第6図	18	試掘	縄文	後期	深鉢	胴部	24.2	沈線					良好	長石、石英、赤色粒子、黒色粒子	(外)明赤褐(黒く焼けたあと) (内)にぶい赤褐			
第6図	19	1号住	縄文	後期	深鉢	口縁	133.6	沈線					良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、赤色粒子	(外)にぶい赤褐			
第6図	20	1号溝	縄文	後期	深鉢	胴部	15	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外) (内)灰褐			
第6図	21	1号住	縄文	後期	深鉢	胴部	30.5	沈線					良好	長石、石英、金雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい褐、褐灰(内)黒褐			
第6図	22	1号住	縄文	後期	深鉢	胴部	37	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)明赤褐(内)にぶい赤褐、灰褐			
第6図	23	1号住	縄文	後期	深鉢	胴部	20.2	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい黄橙(内)にぶい橙			
第6図	24		縄文	中期	深鉢	胴部	32.2	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい橙(内)にぶい橙			
第6図	25		縄文	中期	深鉢	胴部	36.2	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい赤褐(内)にぶい褐			
第6図	26	1号住	縄文	後期	深鉢	胴部	36.4	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい赤褐(内)にぶい褐			
第6図	27	1号住	縄文	後期	深鉢	口縁	11.4	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)明赤褐、灰褐(内)にぶい赤褐			
第6図	28	1号住	縄文	後期	深鉢	口縁	28.4	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)黒褐、灰褐(内)灰褐、にぶい赤褐			
第6図	29	試掘	縄文	中期	深鉢	口縁	54.6	沈線					良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)橙(内)橙			
第6図	30	1号住	縄文	後期	深鉢	胴部	26.7	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)赤褐(内)にぶい赤褐			
第6図	31	試掘	縄文	後期	深鉢	胴部	16.5	沈線					良好	長石、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)暗赤褐色(内)にぶい赤褐			
第6図	32	1号溝	縄文	後期	深鉢	胴部	14.7	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)黒褐、褐灰(内)にぶい橙			
第6図	33	1号溝	縄文	後期	深鉢	胴部	73.9	沈線					良好	長石、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)橙(内)橙			
第6図	34	試掘	縄文	中期	深鉢	胴部	18.9	沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外) (内)にぶい黄橙			
第6図	35	1号住	縄文	後期	深鉢	胴部	13.5	縄文、沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)橙(内)にぶい褐			
第6図	36	1号溝	縄文	後期	深鉢	口縁	31.6	縄文、沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)橙、灰褐(内)にぶい橙			
第6図	37	1号溝	縄文	後期	深鉢	胴部	14	縄文、沈線					良好	長石、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)黒褐(内)灰黄褐、褐灰			
第6図	38		縄文	後期	深鉢	胴部	24.5	縄文、沈線					良好	長石、黒雲母、黒色粒子	(外)にぶい黄褐(内)にぶい黄褐			
第6図	39	試掘	縄文	後期	深鉢	胴部	8.6	縄文、沈線					やや不良	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい橙、にぶい褐(内)灰褐			
第6図	40		縄文	後期	深鉢	胴部	10.5	縄文、沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい橙(内)灰褐			
第6図	41	1号住	縄文	後期	深鉢	胴部	23.7	縄文、沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)黒褐、灰褐(内)褐、にぶい褐			
第6図	42	1号住	縄文	後期	深鉢	胴部	10.1	縄文、沈線					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)灰黄褐、褐灰(内)褐灰、黒褐			
第6図	43	1号住	縄文	後期	深鉢	口縁	27.9	縄文					良好	長石、黒雲母、赤色粒子、黒色粒子	(外)にぶい黄橙(内)にぶい黄橙			
第6図	44		縄文	後期	深鉢	胴部	12.4	刺突					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)褐(内)にぶい橙、にぶい褐			
第6図	45		縄文	中期	深鉢	口縁	5.1	刺突					良好	長石、赤色粒子、黒色粒子	(外)橙(内)赤褐			
第6図	46	1号住	縄文	中期	深鉢	胴部								長石、赤色粒子、黒色粒子				

第6表 石器観察表

図版	番号	出土位置	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石 材	備 考
第7図	54		石鏃	(2.35)	(1.35)	0.4	(0.5)	黒曜石	凹基無茎、片脚欠損
第7図	55	1号住	石鏃	(1.95)	(1.2)	0.35	(0.3)	黒曜石	凹基無茎、先端部・片脚欠損
第7図	56		楔形石器	2.7	2.2	0.7	3.0	黒曜石	
第7図	57	1号溝	2次加工のある剥片	1.9	1.35	0.55	1.0	黒曜石	
第7図	58		2次加工のある剥片	2.25	1.75	0.6	1.6	黒曜石	
第7図	59	1号住	剥片	3.65	2.9	0.8	7.3	チャート	
第7図	60	1号住	磨製石斧	(10.7)	(5.5)	2.55	(238.6)	凝灰岩	
第7図	61		凹石	(6.6)	(6.55)	(3.0)	(178.7)	安山岩	表裏面に凹みあり
第7図	62	1号溝	横刃形石器	6.25	9.9	1.6	86.2	ホルンフェルス	
第9図	33	1号住	砥石	9.3	4.6	3.6	221.9	凝灰岩	平安時代

第7表 遺構別出土石器内訳

器種		1号住	ピット6	ピット24	1号溝	遺構外	合 計	
黒 曜 石	個数	19	1		6	6	32	
	重量 (g)	26.5	1.9		19	14.7	62.1	
	石 鏃	個数	1				1	2
		重量 (g)	1				1.1	2.1
	楔 形 石 器	個数					1	1
		重量 (g)					3.6	3.6
	2 次 加 工 の あ る 剥 片	個数	2			1	2	5
		重量 (g)	4			8.2	3.8	16
	微 細 剥 離 の あ る 剥 片	個数	4			1		5
		重量 (g)	6			1.9		7.9
	剥 片	個数	12	1		4	2	19
		重量 (g)	15.5	1.9		8.9	6.2	32.5
磨 製 石 斧	個数	1					1	
	重量 (g)	238.7					238.7	
横 刃 形 石 器	個数				1		1	
	重量 (g)				86.2		86.2	
凹 石	個数					1	1	
	重量 (g)					178.8	178.8	
剥 片	個数	3		1	2		6	
	重量 (g)	7.8		19	16.6		43.4	
チャート剥片	個数	1					1	
	重量 (g)	7.3					7.3	
砥 石	個数	1					1	
	重量 (g)	222.1					222.1	
合 計	個数	25	1	1	9	7	43	
	重量 (g)	502.4	1.9	19	121.8	193.5	838.6	

第8表 遺構別出土土器内訳

土器種類	別	遺構																	試掘	合計		
		1住	1土	2土	3土	5土	4P	9P	10P	12P	15P	16P	18P	19P	20P	21P	23P	24P			1溝	遺構外
縄文	個数	154	1	11	3	2	2	5	2	4	1	1	1	3	1	5	2	2	65	114	79	458
	重量(g)	1,360	28.2	417.9	17.8	6.2	53.3	57	22.6	73	8.3	46.4	13.3	25.9	20.8	43.8	14.9	22.1	631.1	1,305	1,166	5,333.4
	個数	9	1	1			1		1	1				1					3	4	6	28
	重量(g)	101.2	28.2	23.9			49		12.9	24.8				14.8					23.7	61.1	77.4	417
中期	個数	145		10	3	2	1	5	1	3	1	1	1	2	1	5	2	2	62	108	73	428
	重量(g)	1,258		394	17.8	6.2	4.3	57	9.7	48.2	8.3	46.4	13.3	11.1	20.8	43.8	14.9	22.1	607.4	1,227	1,089	4,898.9
不	個数																		2	2		2
	重量(g)																		17.5	17.5		17.5
古墳	個数	22																	1	4	7	34
	重量(g)	133.1																	8.1	74.3	100	315.5
平安	個数	508																	8	15	19	550
	重量(g)	3,839																	19.8	43.4	127.8	4,030.2
	個数	391																	3	10	8	412
	重量(g)	2,882																	9.7	28.3	70	2,990.1
甲斐型	個数	56																	1	5	5	67
	重量(g)	335.9																	1.9	21.9	48.3	408
黒色坏	個数	9																				9
	重量(g)	108																				108
甕	個数	326																	2	5	3	336
	重量(g)	2,438																	7.8	6.4	21.7	2,474.1
甲斐?	個数	2																				2
	重量(g)	31																				31
黒色	個数	11																	2	1	1	15
	重量(g)	86.3																	3.6	1.6	1.6	93.1
武蔵型	個数	23																				23
	重量(g)	149.4																				149.4
その他の土師器	個数	59																	3	3	9	74
	重量(g)	446.6																	6.5	11.4	20	484.5
	個数	28																	2		6	36
	重量(g)	189																	4.8		12.8	206.6
須恵器	個数	12																	1	3		22
	重量(g)	196.2																	1.7	11.4		68.3
蓋	個数	1																				1
	重量(g)	6.2																				6.2
不明	個数	18																				18
	重量(g)	55.2																				55.2
須恵器	個数	21																	1	3		22
	重量(g)	222.6																	1	11.4		68.3
	個数	19																				19
	重量(g)	147.6																				147.6
灰釉陶器	個数	2																				2
	重量(g)	75																				75
近世以降	個数	1																	1	1		2
	重量(g)	21.2																	2.1	2.1		23.3
	個数	1																				1
	重量(g)	21.2																		2.1	2.1	41
不	個数	4.6																	1	4		6
	重量(g)																		13.8	22.6		41
合計	個数	685	1	11	3	2	5	2	4	4	1	1	1	3	1	5	2	2	76	137	109	1,053
	重量(g)	5,336	28.2	417.9	17.8	6.2	53.3	57	22.6	73	8.3	46.4	13.3	25.9	20.8	43.8	14.9	22.1	681.8	1,445	1,419	9,753.9

※「甲斐?」は、製作技法は同じだが、胎土が違う甲斐型土器のことである。



窪田遺跡周辺遠景 (1986年撮影)



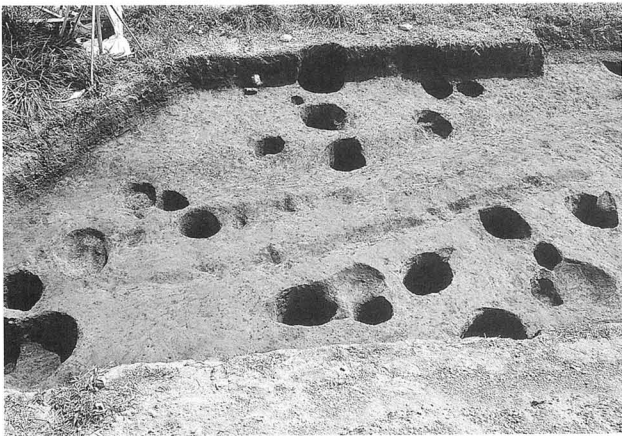
調査区全景① (南から)



調査区全景② (南から)



調査区全景③ (北から)



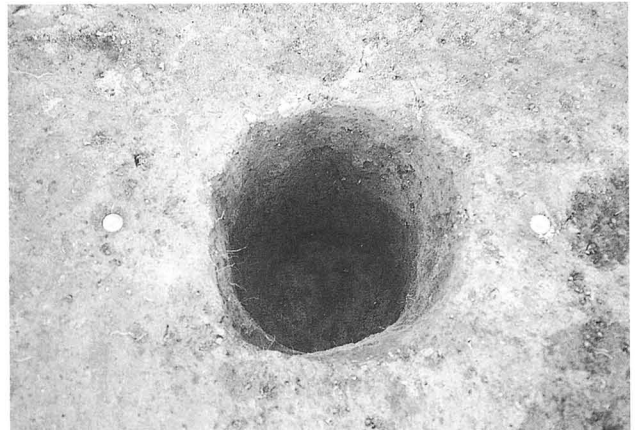
ピット群全景 (西から)



1号土坑



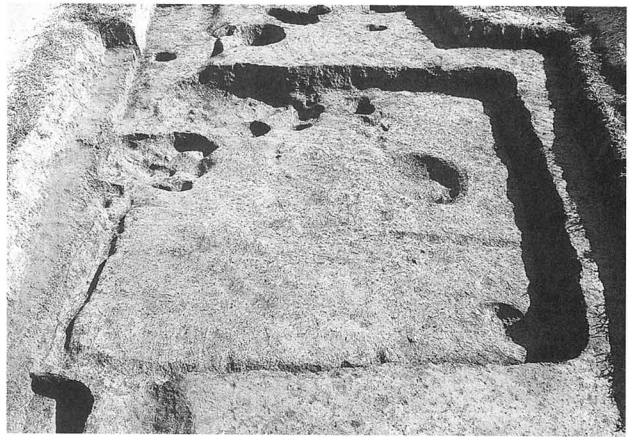
2号土坑遺物出土状況



2号土坑



1号住居跡① (西から)



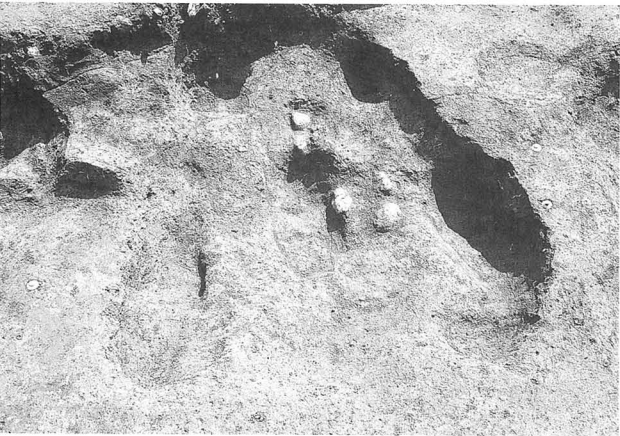
1号住居跡② (北から)



1号住カマド礫出土状況① (西から)



1号住カマド礫出土状況② (北西から)



1号住カマド完掘状況



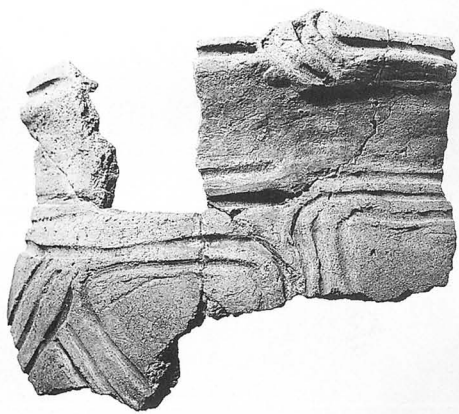
1号住貯蔵穴



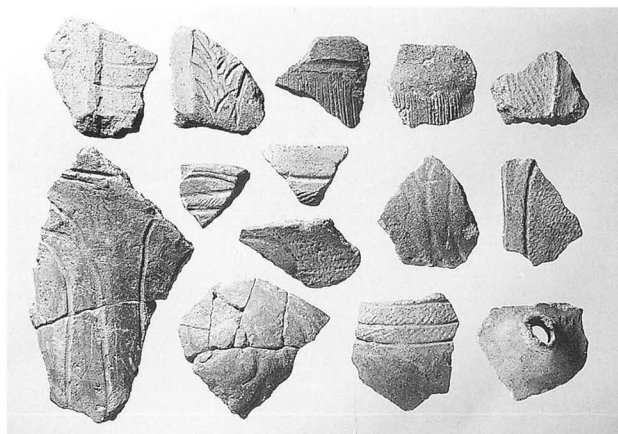
作業風景①



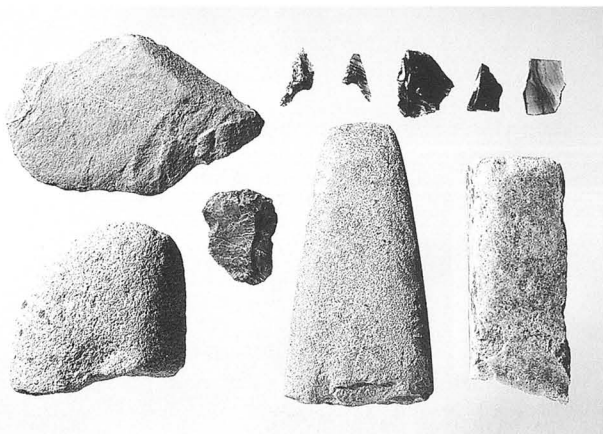
作業風景②



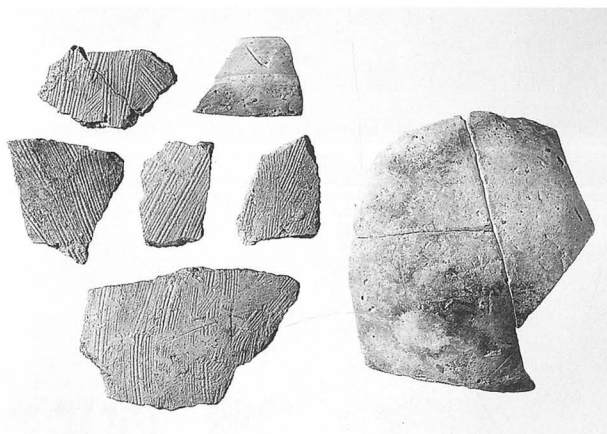
2号土坑出土土器



縄文土器



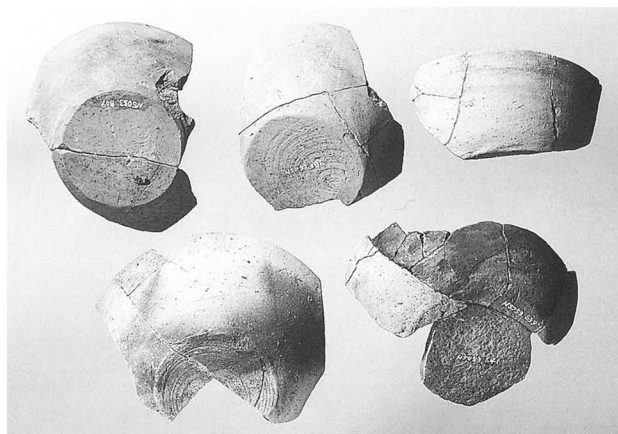
石器及び石製品



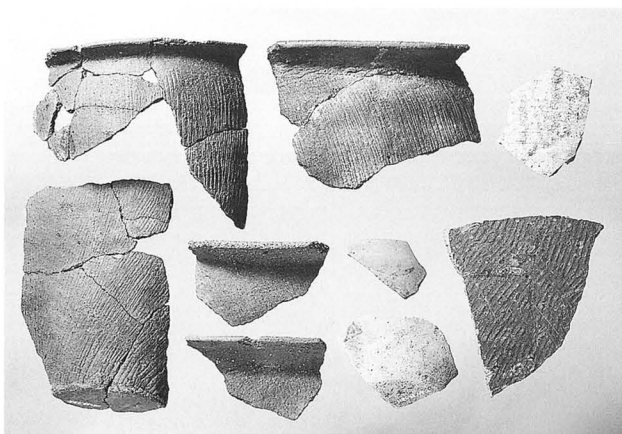
古墳時代土師器



1号住出土甲斐型坏



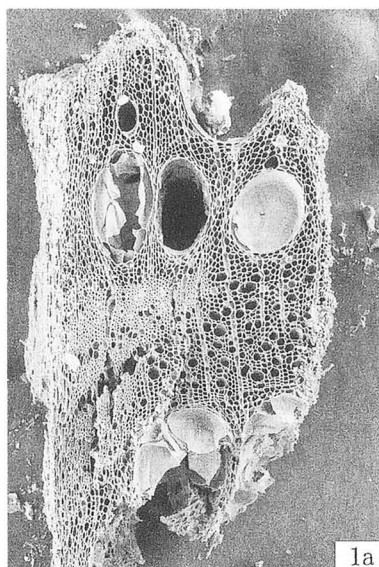
1号住出土坏



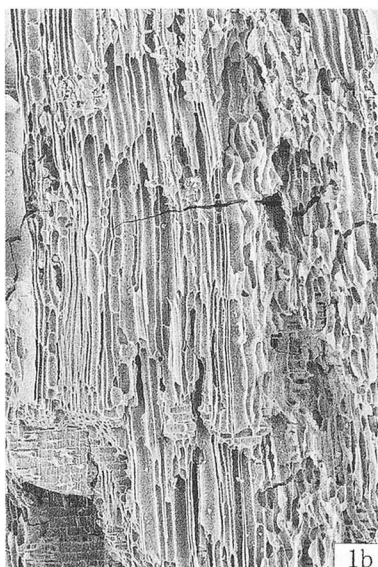
1号住出土甕他



1号住出土武蔵型甕



1a



1b



1c



2a



2b



2c

1. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (1住No880)
 2. コナラ属コナラ亜属クスギ節 (1住No384)
- a : 木口, b : 柁目, c : 板目

200μm : a
200μm : a, c

1号住出土炭化材

報告書抄録

フリガナ	クボタイセキ
書名	窪田遺跡
副題	町道富岡～南新居線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第26集
著者名	村松佳幸
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 TEL 0551-32-2111 (代)
印刷所	鬼灯書籍株式会社 〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5
発行日	2003年3月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町大八田字窪田地内
遺跡番号	長坂町 No053
1/25,000地図名 位置・標高	谷戸 北緯35° 50' 26" 東経138° 23' 21" 標高740m
調査原因	町道富岡～南新居線拡幅工事
調査期間	2002年8月28日～2002年9月13日
調査面積	60m ²
主な時代	縄文時代・平安時代
主な遺構	縄文時代 (中期末～後期前半の土坑2基、ピット21基) 平安時代 (竪穴住居跡1軒) その他 (溝1条、土坑3基、ピット4基)
主な遺物	縄文時代 (土器、石器、黒曜石) 古墳時代 (土師器) 平安時代 (土師器、武蔵型甕、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、砥石) 近世以降 (陶器、磁器、ガラス)

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第26集

窪田遺跡

2003年3月25日 印刷

2003年3月31日 発行

編集・発行 長坂町教育委員会
〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19
TEL 0551-32-2111 (代)

印刷 鬼灯書籍株式会社
〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5
TEL 026-244-0235 (代)

